
異国の風？

鷹槻れん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異国の風？

【Nコード】

N17710

【作者名】

鷹槻れん

【あらすじ】

幼なじみが突然口にした耳慣れない単語。
知ってるか？と聞かれても知るよしもなく、
しまった――。
秋連^{あきつひ}は言葉に詰まって

（前書き）

【異国の風？】をお読みになられる前に――。

余り濃くはありませんが、ちょっぴりBL要素を含んでいます。

苦手な方はご注意下さい（´・ω・｀;）。。

BLって何？って思われた方は読まないほうが無難かと（^^; ;

幼なじみシリーズ

関連作品「嗅覚の法則」「子供の虚勢」「From・A」

「なあ、秋連。^{あきつら} ナカメシグルリアンとオストアンデルって知ってる？」

一時間目と二時間目の間の休み時間。

周囲で楽しそうに談笑するクラスメートたちを横目に読書に耽っていた俺は、^{ただなり}忠成からそんなことお構いなしといった調子で話しかけられた。

「ナカメシ……？」

それほど大声で声を掛けられたわけではないのに、俺の耳はよほどコイツの声が好きなんだろう。忠成が口を開いただけで、周囲の喧騒が一瞬にして消し飛んでしまう。

しかし、容易に俺の鼓膜を占領したその声も、発せられたのが耳慣れないふたつの単語となると、殆ど頭に入ってこなかった。

「ナカメシグルリアンとオストアンデル」

そんな、疑問符だらけの俺の様子に嬉しそうにニヤリと笑うと、忠成がもう一度その言葉を繰り返す。

「何だ、それ？」

何となくその言葉のニュアンスから外国ものの食べ物かな？と思いはしたが、再度言われたところで頓珍漢な響きでしかないそれらの単語は、何の像を結ぶこともなく呆気なく消えた。

益々困惑した顔をした俺に、忠成が満足そうに微笑む。

「お前も絶対食ったことあるって！」

俺が降参するのを心待ちにしているのがありありと伺えるその表情が余りに可愛くて、俺はそう思っているのを表に出さないよう苦労した。

「んな、変な名前のモン、食ったことねえよ」

それで声がつっけんどんになっちゃったのだが、それを気にし

た風もなく忠成が言う。

「俺も最初そう思ったんだけどさ、実物見たら知ってたんだ」

その奇妙なものの正体を言いたくて堪らないんだろ。きらきらと目を輝かせて忠成が言う。

「で、結局何なんだよ、それ……」

その顔を見ているとこつちまで表情が緩んでしまいそうで……それに気取られないよう、わざと素っ気無い素振りですう告げると、俺は読みかけの本に視線を戻した。勿論、こんな状態で文字なんて追えるはずはないのだが――。

「ぼた餅と饅頭」

しかし嬉しそうに告げられたその言葉に、俺は思わず忠成の顔を凝視してしまっていた。

「は……？」

思わず疑問符満載ですう呟けば、

「“中飯グリ飴”と“押すと飴出る”」

言いながら得意そうに手近な紙にそう走り書きをして

「上手いこと言うだろ？ おじさんが考えた名前なんだ」

ニヤリと笑う忠成。

その顔が余りに可愛くて……俺は彼が告げた言葉の内容のバカらしさを言及する気になれなくなっていた。ついでに、言葉のニュアンスからてつきり外国モノの菓子か何かだろうと思っていた自分の浅はかさにも目をつぶることにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1771o/>

異国の風？

2010年10月9日06時55分発行